

# 平成23年度 当初予算編成方針

平成22年11月16日 福島県

## 1 . 財政見通し

景気の低迷や円高の影響などにより、県税収入等の回復は困難  
財源調整のための基金は大幅に減少し、その活用が困難  
社会保障関係経費は更に増加  
県債を活用した財政運営にも限りがある  
国の厳しい財政状況を踏まえると一般財源総額の確保は不透明

## 2 . 基本的な考え方

平成23年度の予算編成は、財政構造改革プログラムの趣旨を踏まえ、引き続き、あらゆる工夫による歳入確保に取り組むとともに、事務事業の効率的執行や整理合理化、総人件費の抑制など、行財政改革を徹底し、本県財政が持続可能な財政構造を確立できるよう最大限に努力していくこととする。

極めて厳しい財政状況にあっても、知恵と工夫を最大限に発揮して、県民生活の安全・安心の確保を最優先に、国の補正予算等で造成した基金を有効に活用しながら現下の厳しい経済・雇用情勢等に的確に対応した予算編成を行うこととする。

「いきいきふくしま創造プラン」の実現に向け、重点的に取り組むべき課題については、予算を重点的・優先的に配分する。

各部局の予算編成に当たっては、県民ニーズを的確に踏まえた上で、既存事業の再構築・重点化を図ることとし、各部局の取組みについても分かりやすく公表することとする。

当初予算は、年度間の見通しに立って編成するものとし、年度途中における予算補正は原則として行わないこととする。

### 3. 「いきいきふくしま創造プラン」

「いきいきふくしま創造プラン」に基づき重点的に取り組むべき課題には戦略的に対応し、5つの重点プログラムに基づく事業に予算を重点的・優先的に配分する。

#### いきいきふくしま創造プラン

～めざす将来の姿～ 人がほほえみ、地域が輝く“ほっとする、ふくしま”

<ふくしまの礎(いしずえ)>  
人と地域が輝く「ふくしま」

ふくしまを支える3本の柱

- ・いきいきとして活気に満ちた「ふくしま」
- ・安全と安心に支えられた「ふくしま」
- ・人にも自然にも思いやりにあふれた「ふくしま」

5つの重点  
プログラム

- 1 未来の主人公であるふくしまの子どもたち育成プログラム
- 2 ふくしまの特性を生かした産業の総合力発揮プログラム
- 3 地域活性化を導くふくしまの低炭素づくりプログラム
- 4 ふくしまのにぎわい創出プログラム
- 5 健康で生きがいに満ち、安全で安心なふくしまづくり推進プログラム

### 4. 具体的な取組み

#### 県民生活の安全・安心の確保と経済・雇用対策

国の補正予算等に伴い造成した各種の基金を最大限に有効活用し、引き続き、県民生活の安全・安心を確保する対策や経済・雇用対策を講じていくこと。

経済・雇用対策については、経済、雇用の情勢に応じて、特に機動的に対応すること。

#### 地域の声の反映と部局横断の取組み

事業の構築に当たっては、地域住民等の声を県の施策に適切に反映させることができるよう、市町村や関係団体、国、県の出先機関等と緊密な連携を図ること。

また、部局や課の枠組みにとらわれることなく、組織横断的な視点で連携を図り知恵と工夫を最大限に発揮すること。

事業を見直す際には、関係する市町村や団体等に対して適切な時期に丁寧な説明を行い、十分な理解を得ることができるよう努めること。

## 国の予算編成等に係る情報の収集

国においては、来年度予算の「概算要求組替え基準」において、事業仕分けや行政レビュー等の結果の反映や補助金等の一活交付金化など総予算の組替えに取り組むこととしており、地方の財政運営にも大きく影響する制度見直しを進めていることから、担当部局が主体となって積極的に情報収集を行い、関係課及び財政課との緊密な連携の下、適切な予算見積りを行うこと。

## 要求の上限値の設定・予算の再調整

要求の上限値は、現時点における最大限の歳入を見込んだ上で示すものであることから、これを超える要求は認められないので、各部局において要求内容を十分調整し、見積書を提出すること。

各部局が要求する予算の上限値については、別途通知するものとする。

今後の経済情勢や国の予算編成、税制改正等の動向によって、現在の「歳入・歳出見込み」に大きな異動が生じる場合は、予算の再調整を行うこととする。

## 更なる行財政改革の取組み

### 歳入確保の取組み

県債については、財政健全化判断比率の状況に十分注意を払いながら、行財政改革の取組みに応じて発行することができる行政改革推進債等を最大限に有効活用するなど、より有利な県債の活用を図るとともに、適切な県債管理によって後年度負担の軽減に努めること。

景気の低迷による低金利が続く中、特定目的基金の運用益は、貴重な財産収入であることから、一般財源として広く活用できるよう、積極的な活用を検討すること。

福島県県有財産最適活用計画（ファシリティマネジメントプラン）を踏まえ、県有財産の計画的かつ積極的な活用・処分を推進するとともに、一括契約の手法を更に取り入れるなど、ファシリティコスト（施設、設備等の維持管理に要する経費）の縮減等に努めること。

### 歳出の見直し

既存事業に対する県民等からの評価・意見を適切に反映させ、より高い効果を得ることができるよう取り組むこと。

内部管理経費の節約や事務事業の効率的執行を図ることはもとより県と市町村、県と民間団体等の適切な役割分担、必要性・妥当性の観点から、事業をゼロベースで見直すこと。

事業の必要性・緊急性及び費用対効果の視点から積極的に統合・廃止による事業数の削減を行うとともに、部局横断的視点から整理・合理化を進め、より効率的な事業体系を構築すること。

市町村においても、県と同様に厳しい財政状況にあることから、職員の知恵と工夫を最大限に発揮して、人的資源を生かした市町村等支援の推進に努めていくこと。

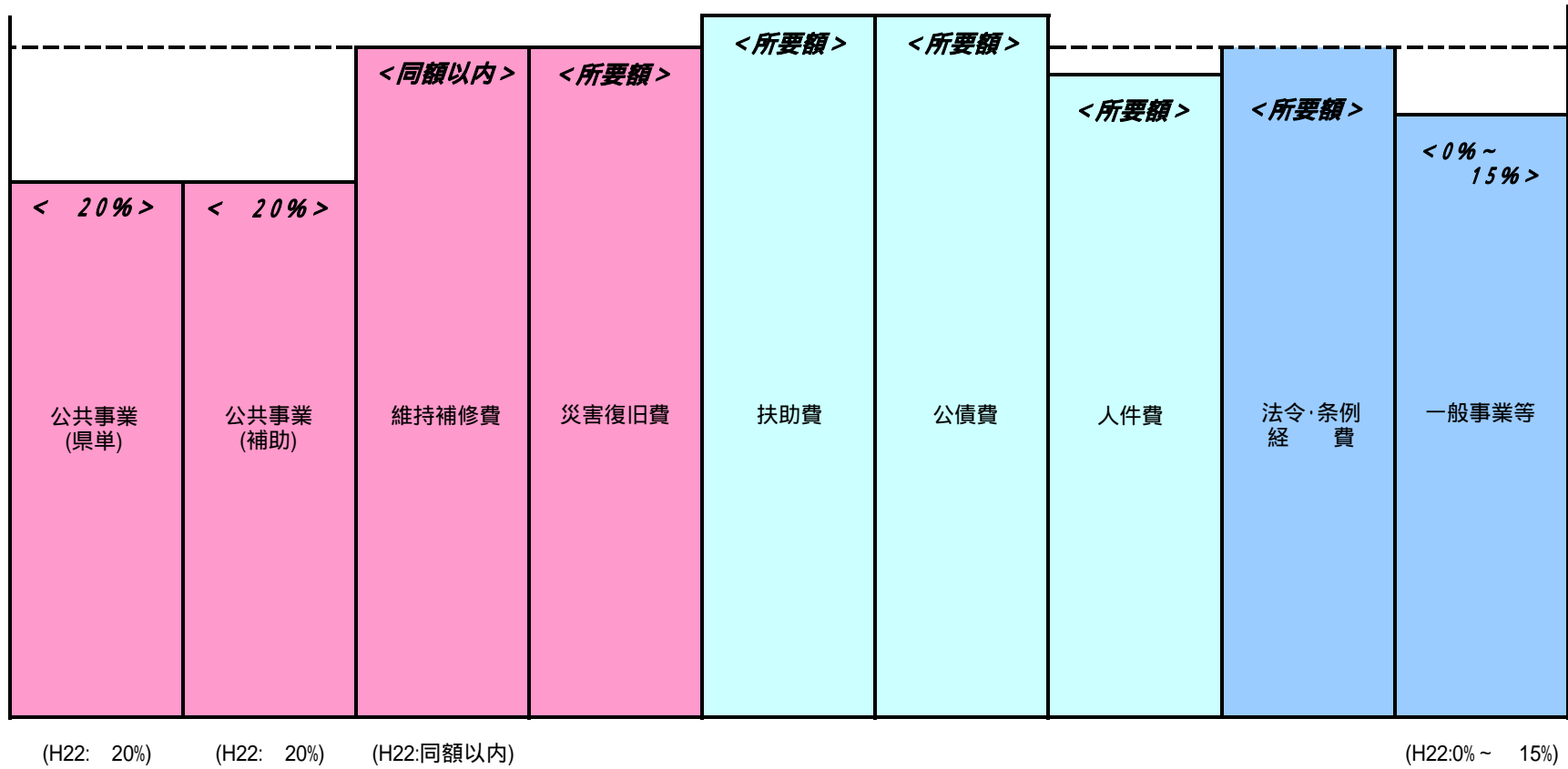
事務事業の見直し等を更に進めながら厳格な定員管理に努め、人件費の更なる抑制を図ること。

# 平成23年度当初予算の編成について(イメージ)

## 【予算の重点配分】

「いきいきふくしま創造プラン」に基づき、特に重点的に取り組むべき課題に対応して、体系的に施策を展開する。

平成22年度当初予算  
(一般財源ベース)



【投資的経費(公共)】

【義務的経費】

【その他の経費】